

令和6年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

令和7年2月6日
足立区教育委員会
学力定着推進課

文部科学省が令和6年4月18日（木）に実施した「令和6年度全国学力・学習状況調査」の調査結果について、以下のとおりお知らせします。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の対象

国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年（原則として全児童生徒）
足立区実施校数：小学校67校、中学校35校（全校実施）

足立区調査人数 (単位：人)

科目 対象学年	科目		
	国語	算数・数学	児童生徒 質問調査
小学6年生	4,801	4,805	4,793
中学3年生	4,031	4,029	4,033

3 調査事項

(1) 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学）

(ア) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

(イ) 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※ 出題内容は、上記（ア）と（イ）を一体的に出題。

イ 質問調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を実施。

※ 児童生徒質問調査は、児童生徒の活用するICT端末等を用いたオンライン方式で実施（4月10日（水）から4月30日（火）の期間で分散して実施）。

(2) 学校に対する質問調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問調査を実施。

4 「教科に関する調査」の概要

(1) 小学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	算数
足立区	65.7	64.4
東京都 (公立)	70	68
全国 (公立)	67.7	63.4

(2) 中学校 各教科の平均正答率 (%)

	国語	数学
足立区	57.5	51.9
東京都 (公立)	61	57
全国 (公立)	58.1	52.5

数値について

平成29年度以後、文部科学省による報道発表では、各地方自治体の平均正答率は整数値で公表されています。

足立区においては、より緻密に全国値と比較するため、上記の表では足立区の受検児童・生徒の平均正答数をもとに平均正答率を小数点1位（端数は四捨五入）まで計算して公表します。

なお、東京都（公立）の各教科の平均正答率は、小数点以下が公表されていないため、整数のまま参考として掲載しています。

<用語の解説>

語句	説明
平均正答数	児童生徒の正答数の平均
平均正答率	平均正答数を百分率で表示 ○ 国語、算数・数学、英語ごとの平均正答率は、それぞれの平均正答数を問題数で割った値の百分率（概数） ○ 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、問題ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童生徒数を全体の児童生徒数で割った値の百分率
全国（公立）	全国の公立学校
東京都（公立）	東京都の公立学校
全国平均値	全国（公立）における平均正答率
東京都平均値	東京都（公立）における平均正答率

5 教科ごとの調査結果及び正答状況から見た現状と課題

小学校6年生【国語】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)	
全体		14	65.7	70	67.7	
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	63.9	67.9	64.4
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	85.7	88.8	86.9
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	70.5	75.3	74.6
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	60.7	63.9	59.8
		B 書くこと	2	64.8	69.9	68.4
		C 読むこと	3	67.0	71.9	70.7
評価の観点	知識・技能	6	68.6	72.6	69.8	
	思考・判断・表現	8	64.1	68.4	66.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を2.0ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を1.2ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を1.9ポイントそれぞれ下回った。

(2) 領域「書くこと」について

- ア 「思考・判断・表現」の平均正答率のうち、「書くこと」の領域が全国値を3.6ポイント下回っていると同時に、64.8%と低くなっている。
- イ 文章の空欄に入る内容を、メモを基にして書く問題の正答率が52.0%と「書くこと」の中で最も低くなっており、全国値(56.6%)を4.6ポイント下回っている。

(3) 見えてきた課題

文章を書く目的や意図を明確にしたり、事実と感想、意見とを区別したりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる力を育成することが必要である。

学習指導のポイント

文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにすることが大切である。また、事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。

授業アイデア例

例えば、学校のよさを伝える文章を書く学習の中で、文章の内容に着目して、文章全体に一貫性があるかを確認したり、文末表現に着目して、事実と考えを適切に区別しているか、混同して書いているかを確認したりする場面を設定することが考えられる。また、伝えたいことを児童同士で交流しながら、それを支える事実としてふさわしいものを取り上げられているか、事実を裏付けとすることでどのような考えを伝えたいのかを確認め合う場面を設定することも考えられる。

小学校6年生【算数】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率(%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		16	64.4	68	63.4
学習指導要領の 領域	A 数と計算	6	66.2	70.6	66.0
	B 図形	4	67.9	70.8	66.3
	C 測定	0			
	C 変化と関係	3	53.5	59.3	51.7
	D データの活用	4	61.9	65.2	61.8
評価の観点	知識・技能	9	73.7	76.7	72.8
	思考・判断・表現	7	52.1	57.1	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見えた課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を1.0ポイント上回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を0.9ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を0.7ポイント上回った。

(2) 「変化と関係」について

- ア 他の領域と比較して、「変化と関係」の領域が平均正答率53.5%と低い。
- イ 『道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。』問題の平均正答率が32.9%（全国値は31.0%）と全設問中で最も低い。

(3) 見えてきた課題

- 二つの数量の関係に着目し、場面や目的に応じて速さの比べ方を判断し、理由を記述できるようにする力を育成することが必要である。

学習指導のポイント

一つの量だけでは比較できない事象に着目し、どのようにすると比べられるかを考え、単位時間当たりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉える等、目的に応じた処理の仕方を工夫できるようにすることが大切である。

授業アイデア例

- (1) 二人の歩く速さの比べ方を考察する際、道のりとかかった時間を確認し、道がまっすぐであることや曲がっていることに関係なく、道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べられ、かかった時間が短い場合に速くなることを説明する場面を設定することが考えられる。
- (2) 速さを比べるときには時間と道のりという二つの量が必要になることに気付けるよう、「時間が等しく道のりが異なる場合」「道のりが等しく時間が異なる場合」「道のりと時間が共に異なる場合」をそれぞれ提示して速さを比べる場面を設定する等の工夫が考えられる。

中学校3年生【国語】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)	
全体		15	57.5	61	58.1	
学習 指導 要領 の 内容	知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	3	57.9	61.6	59.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	59.3	62.9	59.6
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	73.0	75.7	75.6
	思考力 判断力 表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	60.5	62.9	58.8
		B 書くこと	2	63.5	67.9	65.3
		C 読むこと	4	47.3	50.8	47.9
評価の観点	知識・技能	6	60.9	64.4	62.0	
	思考・判断・表現	9	55.3	58.6	55.4	
	主体的に学習に取り組む態度	0				

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を0.6ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を1.1ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を0.1ポイントそれぞれ下回った。

(2) 領域「書くこと」について

- ア 「思考・判断・表現」の平均正答率のうち、「書くこと」の領域が63.5%と全国値を1.8ポイント下回り、最も差が大きくなっている。
- イ 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する問題の正答率が45.7%と「書くこと」の中で最も低くなっており、全国値(49.3%)を3.6ポイント下回っている。

(3) 見えてきた課題

文章を読んだ後に自分の考えをもち、自分の伝えたいことが伝わるように、表現の効果を考えて工夫して書くことができる力を育成することが必要である。

学習指導のポイント

自分の考えが伝わる文章になるように工夫する際には、用いた語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているのかを確かめながら、より効果的な語句や表現を選ぶことが重要である。

授業アイデア例

例えば、物語を創作する学習の中で、下書きした文章などを読み合い、どのようなことを伝えようとして各場面の内容を構想していたのか、自分の伝えたいことが伝わるような描写になっているのかなどを、説明したり確かめたりする学習活動が考えられる。

中学校3年生【数学】

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			足立区	東京都 (公立)	全国 (公立)
全体		16	51.9	57	52.5
学習指導要領の 領域	A 数と式	5	49.7	56.2	51.1
	B 図形	3	39.8	46.5	40.3
	C 関数	4	60.2	63.5	60.7
	D データの活用	4	54.6	59.1	55.5
評価の観点	知識・技能	11	62.4	67.3	63.1
	思考・判断・表現	5	28.3	34.2	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			

※ この調査では、一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しません。このため、各区分の平均正答率を平均しても全体の平均正答率と一致しません。

調査から見た課題

(1) 正答状況

- ア 全体では、区の平均正答率が全国値を0.6ポイント下回った。
- イ 「知識・技能」では、平均正答率が全国値を0.7ポイント、「思考・判断・表現」では、全国値を1.0ポイント下回った。

(2) 「図形」について

- ア 他の領域と比較して、「図形」の領域が平均正答率39.8%と低い。
- イ 『筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる』問題の平均正答率が24.8%（全国値は25.8%）と全設問中で最も低い。

(3) 見えてきた課題

証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるようにする力を育成することが必要である。

学習指導のポイント

証明の根拠となる図形の性質を確認し、結論を導くために必要な事柄を結論から逆向きに考えたり、仮定や仮定から導かれる事柄を明らかにしたりすることが重要である。

授業アイデア例

- (1) 二つの三角形が合同であることを示すことで、二つの線分が等しいことを証明できることを明らかにし、対応する辺や角の大きさについて分かることを整理したり、合同を示すために必要な関係を見いだしたりする場面を設定することが考えられる。
- (2) 証明の結論に当たる条件は、三角形の合同条件の根拠として用いることはできないことや、正三角形の一つの内角の大きさが 60° であることに着目すると対応する角の大きさが等しいことを見いだせること等、証明の方針を確認する場面を設定する等の工夫が考えられる。